

# 巻 頭 言



滋賀県知事 三日月 大造

## 国際交流と多文化共生が拓く 世界とつながる滋賀

私たちが暮らす滋賀県は、日本のほぼ中央に位置し、古来より陸上交通の要衝として人やものの往来が盛んです。県土の中心には日本最大の湖である琵琶湖があり、その琵琶湖が貯水している 275 億トンという豊富な水を、関西圏およそ 1,450 万人の飲料水や工業用水として供給しています。

私たちは、この琵琶湖がとりもつ縁で、アメリカのミシガン州、ブラジルのリオグランデスール州、そして中国の湖南省と姉妹友好提携を結び、長年にわたり交流を続けてきました。昨年 9 月にはミシガン州のホイットマー知事をお迎えし、県政史上で初めて姉妹州の知事に県議会議場でのスピーチを行っていただきました。また 11 月には、リオグランデスール州との姉妹提携 45 周年を記念し、知事として 25 年ぶりに現地を訪問するとともに、湖南省においては、恒久平和に向けての両県省合同の平和祈念行事を執り行いました。さらに、昨年開催された大阪・関西万博では、オーストリアやベトナムをはじめ、さまざまな国や地域の方々と親交を深めることができました。こういった「人と人」、「地域と地域」の相互理解を含め、世界の平和に貢献してまいりたいと思います。

県内に目を向けると、現在本県には県民の約 3% にあたる約 4 万 5 千人の外国人が生活されています。外国人を含むすべての人が多様性を生かして活躍できる地域社会を目指し、国際理解や多文化共生に関する出前授業の実施や、多言語による情報提供、やさしい日本語の普及、多言語に対応した「しが外国人相談センター」の運営、「滋賀県外国人材受入サポートセンター」による外国人材の受入れ・活躍支援などを行っています。また、令和 7 年（2025 年）3 月には「滋賀県多文化共生推進プラン」を、コロナ禍から得られた教訓や県内在住の外国人の増加などを踏まえた内容に改定し、同年、「滋賀県多文化共生推進本部」を設置し、課題解決に向けた取り組みを進めています。さらに、外国人が日常生活・社会生活などに必要な日本語能力を身に付けられるよう、日本語学習機会の提供のための取り組みとして、日本語教育コーディネーターの配置や市町と連携した地域日本語教育モデル事業の実施、日本語学習支援者養成研修の開催などを行っており、今後も引き続き、多文化共生社会の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

自然に恵まれた暮らし、歴史文化の豊かさ、近江商人の「三方よし」の精神などを大切にしながら、「変わる滋賀、続く幸せ」を県民一人ひとりが実感できるよう、本県で暮らし、働き、学ぶすべての人と共に、世界に開かれ、世界とつながり、世界から選ばれる滋賀県を創り上げてまいります。